

2019 年度

# 競技規則問題

マッチオフィシヤル 用

テクニカルデレゲート用

(公財)

日本ハンドボール協会審判委員会

※問題文の最後にある○数字は、選択すべき解答の数を表します。

1. 競技の終了直前に、攻撃側プレーヤー B2 が相手のゴールエリアライン際でボールをキャッチしてシュートを打とうとしたが、違反により妨害された。B2 がボールを手から離す前に、競技の終了合図の笛が鳴った。①
  - (a) 競技の終了
  - (b) B チームのフリースロー
  - (c) B チームの 7 m スロー
  - (d) 競技の終了とし、記録用紙にその旨を記載
  
2. 前半の終了直前に A チームが 7 m スローを行った。A9 が 7 m スローで投げたボールはクロスバーにあたり、そしてゴールの手前およそ 3 m のところに立っていたゴールキーパーの背中にあたり、それから B チームのゴールの中へ入った。ボールがクロスバーからゴールキーパーの背中へと向かう途中に、タイムキーパーが前半の終了合図の笛を吹いた。①
  - (a) 得点
  - (b) 7 m スローを再度実施
  - (c) 休憩時間（判定なし）
  
3. 前半の自動終了合図があった。すぐにレフェリーは、前半が 1 分早く終了したことに気づいた。①
  - (a) 後半を 1 分間延長する。
  - (b) この 1 分間を無効とし、補わない。
  - (c) 休憩時間の終了後に前半と同じサイドで 1 分間競技をさせ、それからサイドを交代して通常どおり後半を開始する。
  - (d) プレーヤーをコートにとどまらせ、残りの 1 分間競技をさせる。
  
4. A11 は競技の開始直前に重傷を負ったため、プレーできなくなった。①
  - (a) A11 は交代できない。
  - (b) 相手チームが了承すれば、A11 は交代できる。
  - (c) A11 は交代できる。代わりに参加するプレーヤーは 11 番をつけてもよいが、記録用紙に記載した名前を変更しなければならない。
  - (d) A11 は交代できるが、代わりに参加するプレーヤーは 11 番をつけられない。
  
5. 競技の開始とともに、ホームチーム A の会長は 2 名のチーム役員、トレーナー、そしてコーチとともにチームベンチに腰を下ろした。②

- (a) 控えのゴールキーパーがベンチの後方で立っていないなければならない。
  - (b) 会長は交代地域から去らなければならない。
  - (c) 役員のうち誰か 1 名が交代地域から去らなければならない。
  - (d) 記録用紙に記載されていない者はすべて、交代地域から去らなければならない。
  - (e) チーム責任者に段階的罰則を適用する。
6. 競技の中断中に B14 が正しく交代した。しかし、タイムキーパーが笛を吹き、B14 は記録用紙に記載されていないと説明した。B14 は B18 として記録用紙に記載されていたことが判明した。なお、大会登録でも B18 となっていた。 ②
- (a) B チームのチーム責任者に段階的罰則を適用する。
  - (b) オフィシャル席の前から A チームにフリースローを与える。
  - (c) B14 は B18 のユニホームに着替える。
  - (d) 競技の中断の理由に相応しいスローで競技を再開する。記録用紙にその旨を特記する。
7. プレーヤーの負傷によるタイムアウト中に、レフェリーが入場許可を与えていないにもかかわらず、A チームの余計なプレーヤーがコート内に飛び込んでいった。 ①
- (a) プレーヤーを警告とする。
  - (b) プレーヤーを 2 分間退場とする。
  - (c) プレーヤーを失格とする。
  - (d) プレーヤーを 2 分間退場とし、A チームはコート上のプレーヤーを 2 分間 1 名減らす
8. レフェリーが A チームに 7 m スローを判定した後、コートに入って 7 m スローを行うように指示された A27 が不正交代をした。 ②
- (a) B チームのフリースロー
  - (b) A チームの 7 m スロー
  - (c) B チームのゴールキーパーズスロー
  - (d) A27 を 2 分間退場
9. A5 は明らかな得点チャンスを得ていた。ちょうどそのとき、A チームのコーチがタイムキーパーを侮辱したため、A5 がシュートしようとした瞬間にタイムキーパーが笛を吹いた。 ②
- (a) A チームのフリースロー
  - (b) A チームのコーチを警告
  - (c) B チームのフリースロー
  - (d) A チームの 7 m スロー
  - (e) 記録用紙にその旨を特記

1 0. 競技の終了合図の後に B チームがフリースローを行おうとしていた。フリースローが行われる前に、A8 と A9 が同時にコートから出た。その交代として、まず A10 が、その直後に A11 がコート内に入った。 ③

- (a) タイムキーパーは笛を吹いて、A チームに不正交代があったことをレフェリーに知らせる。
- (b) 不正交代により、A10 を 2 分間退場とする。
- (c) 不正交代により、A11 を 2 分間退場とする。
- (d) 競技規則違反はないので、タイムキーパーは笛を吹かない。
- (e) A11 は交代地域に戻らなければならない。A8 か A9 のどちらかは再びコートに入ることが許される。

1 1. 出血しているプレーヤーがコート内にいる場合について正しい記載はどれか。 ②

- (a) そのプレーヤーは直ちに自主的にコートから出なければならない。
- (b) 自主的にコート外へ出たとしても、自チームが 3 回の攻撃を完了するまで、そのプレーヤーはコートにはいることはできない。
- (c) 出血しているプレーヤーと交代するプレーヤーは、交代ラインを通らずにコート内に入ってもよい。
- (d) 次の競技の中断まで、そのプレーヤーは再びコートに入ることができない。
- (e) そのプレーヤーが、コートから出るようにというレフェリーの指示に従わない場合には、スポーツマンシップに反する行為として罰則を適用しなければならない。

1 2. 得点は 25 対 25 であった。競技の終了の 2 秒前に、記録用紙に記載されていない A チームの役員が、無人となった自チームのゴールに向かってボールをインターセプトして B チームの得点を妨げた。その直後に競技の終了合図があった。

②

- (a) 25 対 25 で競技の終了
- (b) B チームの 7 m スロー
- (c) 25 対 26 で競技の終了
- (d) A チームの役員を失格
- (e) 記録用紙にその旨を特記

1 3. 両レフェリーが体育館に入ると、まだユニホームを着用していないプレーヤーが、「今日もこの間抜けどもが担当するのか」と叫んだ。競技の開始後 12 分経過したところで、このプレーヤーが B4 のユニホームを着用して遅れてベンチに到着した (B4 は記録用紙に記載されていた)。レフェリーは B4 に気づいた。 ③

- (a) B4 を失格とする。
- (b) B チームのコート上のプレーヤーを 2 分間 1 名減らす。
- (c) B チームはコート上のプレーヤーを減らさずに、競技を続行できる。
- (d) レッドカードの後、ブルーカードを提示し、試合後に報告書を作成する。
- (e) B チームは 14 名にするため、他のプレーヤーを補充できる。

- 1 4. 競技中、チーム役員に対しては最大何回まで警告とすることができるか。①
- (a) なし
  - (b) 1 回
  - (c) 2 回
  - (d) 3 回
- 1 5. 競技の開始前にウォーミングアップをしていたとき、コートプレイヤー A3 とゴールキーパー B1 が偶然に衝突した。両者は互いに腹を立て、B1 が A3 を殴った。すると次に A3 が B1 を殴り返した。まだメンバー表は提出されていなかった。①
- (a) B1 を失格、A3 を 2 分間退場とする。両チームは 14 名のプレイヤーを登録できる。報告書を作成する。
  - (b) 両プレイヤーを失格とする。両チームは 14 名のプレイヤーを登録できるが、競技の開始のときから 2 分間はコート上のプレイヤーを 1 名減らす。報告書を作成する。
  - (c) 両プレイヤーを競技の開始のときから 2 分間退場とする。報告書を作成する。
  - (d) 両プレイヤーを失格とする。両チームは 14 名のプレイヤーを登録できる。報告書を作成する。
- 1 6. プレイヤーが失格となったとき、チームのプレイヤーの数は 1 名減らされる。例外となるのはどのような失格の場合か。①
- (a) 休憩時間中の著しくスポーツマンシップに反する行為
  - (b) コート外での違反
  - (c) 競技の開始前の違反
  - (d) 競技時間中のレフェリーへの侮辱
- 1 7. 競技の終了後、プレイヤーがレフェリーに向かって「お前は俺たちの試合を台無しにした。この間抜け」と叫んだ。①
- (a) 警告
  - (b) 失格
  - (c) 報告書
  - (d) 警告と報告書
- 1 8. 後半が終了し、20 対 20 の同点であった。競技を続けて勝敗を決定しなければならない。②
- (a) 1 分の休憩時間の後に延長戦を開始
  - (b) 5 分の休憩時間の後に延長戦を開始
  - (c) 延長戦の前後半の間の休憩時間は 1 分間
  - (d) 延長戦の前後半の間の休憩時間は 5 分間

19. B チームがボールを所持していた。B チームのコーチがレフェリーの判定に抗議して椅子をコートに投げ入れたため、TD が競技を中断した。B チームのチーム役員は、これまで何の罰則も適用されていなかった。競技が中断されたとき、B7 は明らかな得点チャンスを得ていた。③

- (a) B チームのコーチを警告
- (b) B チームのコーチを 2 分間退場
- (c) B チームのコーチを失格
- (d) A チームのフリースロー
- (e) B チームの 7 m スロー
- (f) 報告書を作成

20. 7 m スローコンテストに参加できないのは誰か。③

- (a) 延長戦の終了直後にレフェリーを侮辱したプレーヤー
- (b) ゴールキーパー
- (c) 延長戦の終了時点で 2 分間の退場時間が満了していないプレーヤー
- (d) 失格となったプレーヤー

21. チームタイムアウトのあと、レフェリーが競技再開の笛を吹いた。しばらくしてから、TD は A チームはゴールキーパー 1 名、コートプレーヤー 7 名がコート上にいることに気づいた。②

- (a) 6 名に戻して、チームタイムアウトの後の状況から競技を再開する。
- (b) タイムアウトの後、A チームのチーム役員は退場となる選手を指名しなければならない。
- (c) チーム役員が退場となるプレーヤーを指名できなければ、罰則を与える。
- (d) チーム役員が退場となるプレーヤーを指名しないときは TD またはレフェリーが指名する。

22. B チームの攻撃中、B チームのチーム役員がグリーンカードを持ち、コーチングゾーンを越えて TD のもとへきた。彼がカードをテーブルに置こうとした際、ボールが A チームへと渡り、置いたときには B チームの所持になっていた。②

- (a) コーチングゾーンを越えたときにはまだ A チームの所持であったので、チームタイムアウトを認める。
- (b) TD は笛を吹き時計を止め、チームタイムアウトが無効であることを、明確に伝える。
- (c) TD は笛を吹いてはならず、チームタイムアウトを認めてはならない。
- (d) グリーンカードを返す。
- (e) グリーンカードは返せない。

23. B14 がコート上でスリップし倒れた。B14 は激しく頭部を床に打ち付けたため、レフェリーはタイムアウトを取り、治療が必要と判断し、ジェスチャー 16 (2 名までの入場許可) をした。②

- (a) B チームのチーム役員はレフェリーの指示に従わなければならない、救護のため 2 名までをコートに入れなければならない。
- (b) B14 に続けて競技に参加してほしいのであれば、救護のための 2 名までをコートに入れる必要はない。
- (c) B チームのチーム役員がレフェリーの指示に従わないのであれば、B14 に罰則を与える。
- (d) B チームのチーム役員がレフェリーの指示に従わないのであれば、B チームのチーム責任者に罰則を与える。

24. A13 は B5 のプッシングによりコート上に倒れた。B5 を 2 分間退場にした。A13 を治療させるためにレフェリーは A チームの役員 2 名をコートに入れる許可をした。②

- (a) A13 は、コート上で速やかに治療が終われば、そのまま競技を続行できる。
- (b) A13 はコート外に出なければならない、再び戻れるのは、A チームの攻撃がその後 3 回完了してからである。
- (c) A13 はコート外で治療を受けても良いが、コートへはいつでも戻ることができる。

25. 試合前のウォーミングアップ中に、A チームのプレーヤー A13 は着用が禁止されているブレスレットをつけていた。TD およびレフェリーがこれに気づいた。②

- (a) 競技時間中ではないので、そのままウォーミングアップをさせる。
- (b) そのプレーヤーとチーム役員に対し、競技時間中では身に着けないように注意する。
- (c) そのプレーヤーとチーム役員に対し身に着けないように注意し、その場で修正するように通知する。試合中も身につけていた場合は罰則が適用されることも通知する。
- (d) もし、競技時間中に再びそのプレーヤーが身に着けていたならば、レフェリーは A13 に対し、段階的罰則を適用する。
- (e) もし、競技時間中に再びそのプレーヤーが身に着けていたならば、レフェリーは A チームのチーム責任者に対し、段階的罰則を適用する。